

大豆生田実著「足利発地方改革」下野新聞社 2012年9月15日刊を読む

足利市経済活性化諮問会議

1. 市長就任以来、これまでに行政改革の深堀りによる歳出削減や調剤薬局設置による家賃収入などの歳入増加策を通じて、財政再建と行政サービスの拡充に取り組んで参りましたが、市の将来にとってもう一つ、それと同じくらい大事なことがあります。
2. それは経済成長です。
申し上げるまでもなく、経済成長なくして雇用は生まれませんし、市税収入アップも街の活力も望むべくもありません。
3. もちろんこれは、一義的にはあくまでも企業などの自助努力によってなされるものですので、行政としての限界もあります。
4. それでも行政として、足利市の成長発展のためにやれることは何でもやらせて頂くという決意でおりますので、この度、民間の、特に製造や生産に携わっている方々を中心にお呼びかけして、平成23年9月20日に足利市経済活性化諮問会議(会長：開倫塾林明夫塾長)を立ち上げました。
5. おかげさまで、経済界に幅広い人脈と豊かな情報を持っている林会長のリーダーシップにより、月に1度の全体会とワーキンググループが随時精力的に行われ、平成24年4月6日に中間答申を頂きましたが、なんとその項目数が613にもものぼり、いかに多方面から詳細にご検討いただいたかがわかりました。8月28日に頂いた最終答申では、いくつか趣旨が類似しているものなどが整理されましたので、項目数は230になりましたが、数もさることながら、その中身は委員の皆様の情熱を感じさせるものとなっています。
6. 特に目を引きましたのは、教育に関する提言の多さです。
7. まさに「企業は人なり」ということだと思いますが、有為な人材を輩出することが地域経済にとって最も大事だという認識を新たにしました。
時間はかかりますが、国家百年の計ならぬ、足利市百年の計として、答申を参考にしながら力を注いでまいります。
8. また、教育以外の分野も有益な提言が多数含まれています。紙面の都合でこの本の中では紹介できないのが残念ですが、できることからひとつひとつ実現に向けて努力してまいります。

P190 ~ 192

[コメント]

大豆生田実・足利市長が着任以来3年余りの実績を自らの手でおまとめになった報告書。その中で、私が会長を務めた「足利市経済活性化諮問会議」について取り上げて頂いたのは有難い。毎月の3時間におよぶすべての会議に、関係の市の部課長とともに市長にもご参加頂けたのは有難かった。あとは、市民の皆様とともにどう実行し経済を活性化するかだけだ。

— 2012年11月6日 林 明夫記 —